



学校通信 赤坂小だより

令和6年度 第22号 R7.1.8

北九州市立赤坂小学校

校長 大成 清徳

新年あけましておめでとうございます

～令和7年・2025年の始まりに当たって～

◎冬休みも終わり、本日よりいよいよ後期後半が始まりました。朝、交差点に立っていると、いつもと変わらず「おはようございます。」と元気に挨拶をする子どもたちの笑顔に、心が温かくなり、気持ちのよいスタートを迎えることができました。

保護者の皆様のご協力のお陰で、年末年始に大きな事故や病気の連絡もなく、無事にこの日を迎えることができましたことに感謝申し上げます。

巳年の意味は？

今年は「巳年」、十干では「乙」、干支は「乙巳（きのと・み）」となります。「乙」は、木のエネルギーを表し、日陰でも成長し、しなやかに伸びていく草木を表しています。「巳」は「再生と変化」を意味します。蛇が脱皮を繰り返し、成長していくように、私たちも新しい経験や学びを通じて、自分を成長させることができます。失敗や困難があっても、新たな挑戦のチャンスと受け入れ、一歩前に進むようにしたいものです。

元旦から、能登半島地震という大きな災害に見舞われた今年。子どもたちには、当たり前の毎日に感謝し、自分自身を大切にしてほしいと願って、次のようなお話をしました。

みなさんも知っている通り、最大震度7の大きな揺れに見舞われた能登半島地震から、今年の1月1日で1年が経ちました。石川、新潟、富山の3県で、500人以上もの尊い命が失われ、15万もの家が被害を受け、いまだに被災地の復旧・復興は進んでいません。

大間圭介さんは、妻はる香さんと3人の子どもを地震で亡くしました。年末年始にはる香さんの実家に集まっていた時、地震が起きて家が揺れました。警察官である大間さんは、怖がる子どもたちに「ごめんね」と声をかけ仕事に出かけます。その時、2度目の揺れが来て裏山が崩れ、妻と子どもを含めて家族9人が犠牲になり、大間さん一人が残されたのです。

警察官として昨年3月に仕事に復帰した大間さんは、以前子どもたちから「やればできるよ。」と励まされ、金沢マラソンに出場して完走したことを思い出し、昨年10月、再び金沢マラソンに出場しました。「何か決まっているわけではないが、マラソンのように次の目標に備えて準備したい。」と一歩を踏み出しました。

地震から1年を迎えた元旦、「いつまでも背を向けてはいられない」と、初めて現場を訪れました。土砂に埋まった家はつぶれたまま、崩れた土砂や倒木が今も大量に残ります。ひしゃげたまま残っていた車を目にし、涙を流しました。

亡くなった家族のために花を供えた後、「生き残った私は、家族に生かしてもらったと思う。だから、一日一日を無駄にせず、家族がやりたかったことをしてあげたい。来るのはしんどかったが、家族のことや楽しかったことを思い出し、来て良かった」と顔を上げました。

こうした自然災害を受けて思うことは、自然の力には、私たち人間はとてまかなわないということ。そして、何気なく過ごしている毎日が、当たり前ではないということです。今も先が見えずに苦しんでいる被災地の方のために、1日も早く普通の暮らしが取り戻されることを願います。そして、今、生きていることや周りの人に感謝して、1日1日を大切に生きていかなければと、改めて感じさせられました。

みなさんの中には、新しい年の始まりに、自分なりの目標を立てた人もいるでしょう。うまくいかないこと、失敗することがあっても、「自分」というかけがえのない命を大切に、自分を信じて努力し続けましょう。後期後半は短いですがとても大事な時期です。4月から6年生は中学生に、1年生から5年生は一つ上の学年に進級するための準備をするときです。「なりたい自分」を胸に描いて、一歩を踏み出しましょう。

ほっと一息 優しさと勇気にふれて

◎新しい年を迎えましたが、世界を見渡せば、国と国、民族と民族、お互いの考え方の違いなどで、相変わらず争いが絶えない状況が続いています。世界の子どもたちの中で、紛争下で生きる子どもは6人に1人以上にものぼると言われています。

今年は、戦後80年。私たちの国では、幸いなことにこの間、一度も戦争を経験することなく現在に至っています。しかし、戦争を体験した方が年々少なくなっている今、この平和を維持していくために、私たちにできることは何かを考え続けていかなければならないと思います。

尊い命が理不尽に失われることが続いた年末でしたが、心温まるニュースを目にしました。三井住友信託銀行が昨年から主催している『わたし大賞』は、一人一人の心を動かした素晴らしい出来事や感謝したい人、一期一会の瞬間に、わたしだけの「大賞」を贈るというものです。

今年の大賞に選ばれた中から、一つのエピソードをご紹介します

わたし大賞

満員電車の奇跡賞

ランドセルの君 殿

5年前。朝の満員電車。

具合の悪い私のために大きな声で

「席を譲ってください」と

車内に呼びかけてくれた

ランドセルの君に、あの時

言えなかった「ありがとう」を

大きな声で送ります。

あの日救われたおじさん

朝の満員電車。体調が悪く、吊革にしがみついてうつむいていると下から声がする。

「おじさん、大丈夫？」

見るとランドセルを背負って黄色い帽子を被った少年が見上げています。力なくうなずくと、ふいに少年は声を張り上げた。

「具合の悪い人がいます。誰か席を譲ってください！」

その声に反応して、2,3人が腰を上げた。そのうちの一席に私の手を引いて座らせると、席を譲ってくれた方に私より先にお礼を述べている。私は少年と、席を譲ってくださった方に頭を下げるのが精一杯だった。終点に到着したアナウンスと共に顔を上げると、ドアから足早に出ていく少年のランドセルが目映った。お礼は言えないままだった。

朝の満員電車は、慌ただしさと微かな苛立ちに満ちている。そんな中、幼い少年が示してくれた優しさと勇気は、たぶん私以外の乗客の方々の心にも何かを残したように思える。あの日、体も心も救ってくれた彼に、精一杯のありがとうを伝えたい。

これは、埼玉県在住の植田郁男さんが出会った小学生に贈った大賞です。朝の満員電車の息苦しさの中に、さわやかな風が吹いたように感じます。少年の優しさと勇気に触れた植田さんは、この後、自身も妊婦さんに席を譲ったと嬉しそうに話されていたそうです。誰もが心の中にもっていて、日頃は見えにくくなっている優しさや勇気を少年が呼び起こしてくれたのですね。

赤坂小学校にも、優しさと、それを素直に表現する気持ちをもった子どもたちがたくさんいます。今年も、子どもたちの心の中にある優しさや勇気に光を当てながら、一步一步成長できるように、職員一同取り組んでいきたいと思っています。引き続き、保護者の皆様のご協力をお願いいたします。

1月の主な予定

- 9日(木) 給食開始
- 10日(金) 職員研修のため、給食後下校 ※13時30分下校予定
- 14日(火) 消防夢コンサート③④
- 16日(木) CRT(国語・算数)【1～5年】委員会活動
- 17日(金) 避難訓練(地震)②、明治出前授業【4・6年】⑤⑥
- 23日(木) クラブ活動(3年生見学)
- 26日(日) 北九州市議会議員選挙(前日午前～準備)
- 29日(水) 本城東幼稚園との交流【1年】
- 30日(木) 天文学習【4年】午後～スペース LABO
- 31日(金) 歯科衛生士による歯科保健指導